

当院職員の麻しん発症に関するご報告

2026年5月7日、当院の病棟に勤務する医療従事者2名が麻しんと診断されました。当該職員は、麻しん含有ワクチンを複数回接種済みでしたが、発熱および発疹等の症状を認め、検査の結果、麻しんと診断されました。当院では保健所と連携し、接触の可能性のある範囲は主に当該職員が勤務していた特定の病棟に関連するものと確認したうえで、患者さん、職員、委託職員等への接触状況の確認とリスク評価を実施しました。接触の可能性のある方には、麻しんに対する免疫の確認、健康観察や受診時の注意事項等について個別にご案内しています。すでに退院または転院された患者さんについても、ご本人またはご家族・転院先医療機関と情報共有を行っています。

麻しんは感染力の強い感染症であり、医療機関では慎重な対応が必要です。麻しんと診断された職員はいずれも、麻しん含有ワクチンを複数回接種済みです。ワクチン接種後の発症例では、典型的な麻しんと比べて症状が軽く、ウイルス量や周囲への感染性も約200分の1と低い傾向があることが報告されています。ただし、当院では、感染性がないと判断しているものではなく、通常の麻しん発生時に順じた感染対策を実施し、麻しん陽性例に準じた接触者調査および健康観察等の対応を行っています。

患者さん、ご家族、関係医療機関の皆さまにはご心配をおかけいたしますが、当院では保健所と連携し、感染拡大防止に努めながら、通常診療は救急医療を含めて平素と変わらず継続しております。今後、新たにお知らせすべき事項が判明した場合には、速やかに情報を更新いたします。

なお、医療機関からの転院・紹介に関する個別のご相談がございましたら、地域医療連携室（TEL：03-3202-8066）までご連絡ください。

また、4月の下旬以降から現在まで、当院の受診もしくは入院歴がある方で発熱・皮疹を呈している方で本件に関するご質問やお問い合わせがある方は感染症科外来（TEL: 03-6228-0738）までお願いいたします。

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 院長 宮崎 英世